

毎年本科・日本語科で様々な交流活動を行っていますが、今年新たに防災館に見学に行きました。留学生の体験談を紹介します。

本所防災館を見学して

日本語科2年A組 趙庭輝
(校閲：古谷創)

2019年9月10日に、私たちは錦糸町の本所防災館へ行きました。どうやって災害を予防するかは、大きな問題です。防災館は地震や台風や火事の疑似体験ができる施設です。そこで体験したことを書きたいと思います。

まず、4階の映画館〔防災シアター〕で、防災についての映画を見ました。〔映画に出てきた〕小さい女の子と一緒に、防災について勉強しました。阪神大震災で倒れた建物や、東日本大震災の津波で被害に遭った学校の映像が流れました。地震の前は、一人一人に美しく幸せな生活があったのに、それは地獄のようでした。でも、東京にも地震は必ず来ます。どうすればいいのでしょうか。

大切なのは「自助」（自分で準備する）、「共助」（近所の人と助け合う）、「公助」（行政の支援）だそうです。特に「共助」が大切だと思いました。関東大震災のとき、神田の人たちは自分で火事を消したそうです。これは人間の「奇跡」ではないのでしょうか。現在でも、〔墨田区の団地では〕中学生が防災活動に参加しています。日本の中学生の皆さんは、こんなにも早く社会の責任を背負っているのかと、びっくりしました。将来の国の主人公になるのが楽しみです。

映画を見た後で、グループに分かれて防災体験をしました。まず、1階の地震体験コーナーで、マグニチュード7の地震を体験しました。倒れてきた棚や怖いと叫ぶ声で、部屋中が異様な空気になりました。「Oh my God!」という気分でした。

次に、3階の暴風雨体験コーナーへ行きました。レインコートと長靴姿になって、台風の時と同じような強い風と雨を体験しました。みんなしっかりポールにつかまっていた。特に女性は大変そうでしたが、暴風雨は紳士的ではありませんでした。

それから、2階の消火体験コーナーへ行きました。大きなスクリーンを相手にして、消火器を持って火事を消す体験をしました。わたしたちのグループは古谷先生のおかげで火事モンスターを攻略することができました。やった！

その後、同じ階の煙体験コーナーへ行きました。これは実は「心」の試験だと思います。安全には秩序が大切です。先頭の人



別科朗読大会に陳淑梅先生がいらっしゃいました

A 先生の新語コーナー



jùyīng
“巨嬰”

本来の意味は体の大きな赤ちゃんだが、現在では心が未熟な大人を指すことが多い。わがままな性格で、身勝手、自己中心、モラル欠如などの特徴をもち、予想外のことが起こると、感情をコントロールできなくなり、過激な行動に走りやすいという。過度に甘やかされたことが背景にあり、長年の一人っ子政策の下で育った「小皇帝」が「巨嬰」になったとの見方も。昨年、乗客と運転手のトラブルが原因でバスが川に転落する事故が起き、この言葉がクローズアップされた。

(A)

がみんなをうまく引率して、無事ゴールに到達しました。

日本の豊富な防災経験がうらやましかったです。体験の間ずっと、ガイドさんが一生懸命解説してくれました。防災に対する熱意と積極性に、いい

刺激を受けました。

最後に、映画に出てきた女の子の言葉を紹介します。「大きい地震は明日来るかもしれない。そうだ、急がなくっちゃ。ね、あなたも」。私たちも、まだ知らない将来のために準備しましょう。

見聞記 聖なる白頭山、神秘の天池

私は長年にわたって中国との経済貿易の仕事に携わってきましたが、2002年の日朝平壤宣言発表を契機に、2004年に初めて平壤を訪問しました。

日中国交正常化（1972年）以前から民間貿易促進事業にかかわり、民間交流の大切さを経験した者にとって、朝鮮との民間往来を断絶させてはならないと思ったからです。

1910年の日韓併合により日本の領土となった朝鮮半島は、1945年の日本敗戦で独立しましたが、その後南北に分断しました。南の韓国とは1965年に日本は国交が正常化しましたが、北の朝鮮民主主義人民共和国とは無国交のまま70年が経ちました。

今年6月の「白頭山登頂を含む6日間の旅」の旅行案内を中外旅行社からもらい、すぐに参加を申し込みました。

今回一行はちょうど10人。北京経由平壤到着の翌日（6月21日）、国内チャーター便で一時間半、三池淵空港に到着、そのままマイクロバスで白頭山山頂を目指しました。この日は爽やかな天候（気温19℃～25℃）に恵まれました。白頭山は朝鮮の最高峰（2,750m）で、古来「聖なる山」として朝鮮民族に崇められてきました。山頂はさすがに防風アノラックが必要。内外の観光客が盛んに記念写真を撮る中、神秘的なカルデラ湖「天池」をはっきり眺望することができました。山麓にはまだ雪渓が残り、裾野にはエゾ松の原生林が広がる雄大なパノラマを満喫。新鮮な空気、新緑の原野、真っ青な空、「地球はこんなにも良いところなのか」と実感させられました。

四日目、初訪朝の団員たちは板門店・開城に行き、私たち4人は安州へ行きました。安州は平壤の北100キロ、清川江の南岸に発展した都市で、

高麗時代に契丹の侵入から平壤を守る役割を果たしたそうです。観光の目玉「百祥楼」

を訪れました。安州城の高台にある楼閣で、百の景色をめぐる楼閣として有名であり、もともと木造建築でしたが、朝鮮戦争の時米軍の空爆で焼失、現在の建物は1977年に再建された鉄筋コンクリート製。ちょうど地元の新婚夫婦と親族が結婚の記念写真を撮るために来ており、私たちも一緒に写真に入れてもらいました。

最後の思い出は個別活動として平壤で朝鮮の少女と囲碁を楽しんだことです。市内にあるテコンドー聖地館（武道館に当たるような体育施設）で全国アマ囲碁大会が開催中でした。小学生、女子、成人男子、老人などの部に分かれ熱戦中の会場の一室で、17歳の少女（清津から来たアマ3段）、14歳の少年（アマ2段）とそれぞれ一局ずつ対戦しました。「どこで習ったの？」と聞くと、二人とも少年宮殿（学生の課外活動のために設置されている公共施設）で教わったとのことでした。朝鮮の人々も囲碁を楽しんでいることがわかりました。まさに「百聞は一見に如かず」です。（片寄浩紀）



天池



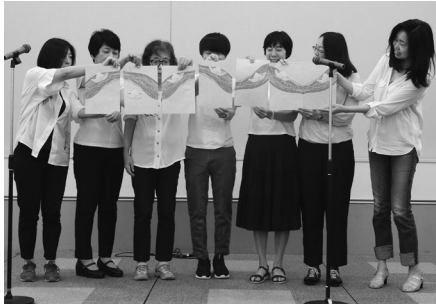
百祥楼



囲碁大会

別科朗読大会

9月28日(土)恒例の別科朗読大会が行われました。今年は初級から応用レベルまで、全26クラスが日頃の練習の成果を発揮しました。小道具を使った朗読や寸劇など工夫を凝らした楽しい発表が続きました。またゲストに高校生や本科・日本語科の学生も参加しました。最後に、テレビ・ラジオ講座でお馴染みの陳淑梅先生よりお言葉を頂き、抽選会で盛り上がりました。参加した皆さんお疲れ様でした！



図書室 だより

今月の新着図書から

今年も北京短期研修に引率で行かれた先生方が現地で購入した図書が配架されました。今月はそれらの図書からご紹介いたします。

★《汉语分级阅读》シリーズ (500词・1000词・1500词・2000词・2500词・3000词) 全6冊 华语教学出版社



中国語で書かれた読み物を読みたい！でも難しいだろうな、という方におすすめなのが本書のシリーズです。単語数別になっており、易いもので500語からあります。ピンイン付きで、しかも掲載されている小説は全て中国を代表する作家が過去に発表した

作品から、中国人の生活や考え方がよく理解できる優れたものを厳選しています。音声は、1500

词の分のみMP3ディスク付きで、その他の書は华语教学出版社のホームページから音声をダウンロードできます。聴き取りの練習だけでなく、朗読の練習にも最適です。

＜本シリーズ掲載作品作家一覧＞

500词：冯骥才 贾平凹 陈永林 海飞 ほか
1000词：陈忠实 张洁 高晓声 迟子建 范小青 ほか
1500词：方方 周克芹 刘庆邦 聂鑫森 ほか
2000词：苏童 裘山山 徐坤 莫言 余华 ほか
2500词：陆文夫 谌容 何申 阿宁 衣向东
3000词：周大新 毕淑敏 梁晓声 谢竞远 ほか

《その他の新着書》(出版者略)

- ★《寺山修司少女诗集》
- ★《雪国》★《藤花与草莓》川端康成
- ★《下雨的书店》日向理惠子
- ★《银河铁道之夜》宫泽贤治
- ★《和果子》来自日本的和果子制作殿堂级教本
- ★《食帖20 面的奥义》
- ★《食帖22 日本料理完全保存本》★《好食集》
- ★《知中014 中国茶的基本》ほか多数

11 月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
					1 ●本科推薦入試締切	2
3 ●祝日 ●本科推薦入試	4 ●振替休日	5	6 ●本科推薦入試 合格発表/1次募集 受付開始	7	8	9 ●本科公開講座② 9:30～13:00
10	11 ●日本語科定期試験 (～15日)	12	13	14 ●倉石先生生日	15	16
17	18	19	20	21	22	23 ●祝日
24 ●中国語検定試験	25	26	27	28	29 ●本科1次入試 受付締切	30 ●本研校内推薦面接
●12月の日中学院 ・1日…本科1次入試 別科1日集中講座 ・3日…本科1次入試合格発表 ・4日…本科2次募集受付開始 本科、日本語科小石川公園散策		・6日…別科公開講座18:45～(入門) ・14日…本科定期試験(～20日) 別科公開講座13:00～(入門、基礎) ・18日…別科休み(～20日) ・20日…本科、日本語科2学期授業最終日		・21日…本科、日本語科冬休み(～1/9) ・23日…別科275期授業最終日 ・24日…別科冬休み(～1/5) ・26日…閉門(～1/5)		

本科説明会を兼ねた 中国語無料公開講座のお知らせ

本科入学希望者を対象に、以下の日程で無料公開講座を開催します。前半で中国語の発音、挨拶、簡単な会話の授業を体験します。その後、在校生との交流会があります。習った中国語を試したり、学院生活について様々な話が聞けると思います。興味のある方は奮ってお申し込み下さい。

2019年11月9日(土)

9:30～11:30 発音公開講座

11:30～13:00 在校生との交流会

～～～～～
若き中華の巨匠・山口祐介シェフの料理講座もあります!!

別科1日集中講座

日 時:12月1日(日)

10:00～12:00 / 13:30～15:30(1日4時間)

受講料:7,800円(2時間講座は3,900円)

入門、発音、会話、文法、文化講座など様々な講座が開講します。平日時間がとれない方、この機会に学んでみませんか。詳しくはホームページをご覧ください。お申し込みもHPからどうぞ。

<https://www.rizhong.org/part-time/concentrated>

学院長の思い出話14

プラント中止、外資導入へ転換

1978年の対外開放政策で外資導入方針を決めた中国は、2年後の1980年の年末に突然すべての調印済みプラント輸入契約の中止を通告してきました。プラント導入から外資導入への方針転換を示す措置でした。

中国は建国以来一貫してプラント輸入を重視してきました。建国初期はソ連・東欧から156項目のプラントを導入し、工業近代化の基礎を築きました。1960年代になると導入先を西側諸国に切り替えました。1976年以後は「洋躍進」と批判されるほど多数のプラント輸入契約を締結しました。

ところが外貨の資金繰りがつかず、契約の中止に追い込まれたわけです。中国の国際的信用は急落し、日本側の輸出メーカーも大変な苦境に陥りました。協会は実情調査を行い、国際契約を尊重するよう中国政府に要望しました。日本政府は円借款や商品借款を供与し、中国の資金不足の解決に協力しました。その結果、ほとんどの契約は数年以内に復活しました。しかしこの問題以後、中国のプラント輸入は急減し、外国からの直接投資(特に合弁企業)の導入に一層力を入れるようになりました。(片寄浩紀)